

令和8年度
事業計画書

特別養護老人ホーム 雪舟園

目 次

1 事業運営計画-----	P 1
2 実施施策の令和8年度行動計画-----	P 2
(1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上-----	P 2
(2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり-----	P 3
(3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立-----	P 5
3 目標利用率-----	P 8
4 固定資産物品購入計画-----	P 8
5 修繕計画-----	P 8
6 大規模修繕計画-----	P 8

1 事業運営計画

事業の種類及び利用定員				
1	介護老人福祉施設	70名		
2	短期入所生活介護	10名		
運営方針				
1	介護老人福祉施設			
	(1) 個人の尊厳を旨とし、入居者の権利擁護に努め、より一層質の高いサービスを追求する。			
	(2) 安心して安全かつ健全な生活の場を保つ			
	(3) 法令を遵守し、入居者及び家族への説明責任を果たす。			
	(4) 効率的な経営と良質なサービスの根幹となる優れた人材の育成に努める。			
	(5) 地域における福祉の発展を使命とし、地域の法人と事業所、住民との密接な連携を図る。			
2	短期入所生活介護			
	(1) 個人の尊厳を旨とし、利用者の権利擁護に努め、より一層質の高いサービスを追求する。			
	(2) 安心して安全かつ健全な生活の場を保つ。			
	(3) 法令を遵守し、利用者及び家族への説明責任を果たす。			
	(4) 効率的な運営と良質なサービスの根幹となる優れた人材の育成に努める。			
	(5) 地域における福祉の発展を使命とし、地域の法人と事業所、住民との密な連携を図る。			
利用者が可能な限り、自立した居宅生活を送ることが出来るよう、日常生活上に必要な援助を行い、家族の身体的又は精神的負担の軽減に資する。				
職種別職員配置				
1	介護老人福祉施設・短期入所生活介護			
職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
施設長	1			1
事務職員	2	1		3
栄養士	1			1
調理員	2	2	1.8	5.8
生活相談員	2			2
介護支援専門員	1			1
介護職員	24	16	2.4	42.4
看護職員	4		0.7	4.7
機能訓練指導員	1			1
夜間介護員			1.2	1.2
介護助手			2.0	2.0
警備従事者			1	1
用務員			1.3	1.3
合計	38	19	10.4	67.4

縣市町村等からの受託、補助事業等
1 要介護認定調査（益田市、浜田市、津和野町） 2 介護予防支援業務（地域包括支援センター）
地域における公益的な取組
1 社会福祉法人等による利用者負担軽減制度の利用による生活困窮者の支援

2 実施施策の令和8年度行動計画

(1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上

ア 個別ニーズに応じた専門的なケアの充実で、個々の利用者 QOL を高める。

実施施策	満足度を高める個別ケアと接遇力の向上
取組の方向性①	日々の関わりをベースとした利用者理解を深め、介護員がケアの方向性を主体的に考えられるようになる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ プチミーティングを活用し、日々の関わりの中での気づきや大切にしたいことを共有する。
取組の方向性②	職種間の専門性を尊重し、その特性を融合できるチーム体制をつくる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多職種による事例検討会を行い、それぞれの専門性を活かしたチームケアを実践する。
取組の方向性③	利用者の意向と支援方針について、チームとして共通認識を持てる体制を整える。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 整理した考え方や工夫を実際のケアに取り入れ、「やってみてどうだったか」等の振り返りを行い、よりよいケアにつなげる。
取組の方向性④	接遇の共通ルールを整え、だれにとっても気持ちよい対応が自然にできる環境を作る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶や言葉使い、声掛けや表情、距離感などの接遇の基本を「当たり前前行動」とした共通ルールを作成する。 ・ 自己評価、他者評価を実施し、接遇の在り方が適切かどうか確認する。 ・ お見事カードの取り組みを活用し、接遇面での良い行動や工夫を具体的に伝え合う。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	事故防止の強化による安全・快適な暮らしの実現
取組の方向性①	転倒などのリスクを踏まえつつ、利用者の自由や希望を尊重し、安全と快適さを両立できる生活環境づくりを進める
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事故対策部会において、介護事故防止の対応が、「念のため」の対応や必要以上の制限になっていないかを確認する。
取組の方向性②	事故やヒヤリハット事例をチームで共有し、原因分析と対策の検討を通じて、未然防止力の向上を図る。

行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヒヤリハットや日々の変化において注意すべきポイントを記録し、共有することで事故の予見につなげる。 ・ 事故について、入居者要因・職員の関わり・環境要因の3つの視点で細かく検証し、その背景を踏まえた具体的な対応策を立てる。
取組の方向性③	家族とリスクを共有し理解を得ることで、事故を防ぎつつ、職員が安心して支援できる体制を整える。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入居者及び家族に対して、転倒や体調変化が起こりやすい場面について、写真、事例、普段の様子を用いて説明を行い、共通認識を深める。

ウ テクノロジーを活用した根拠のあるケアの提供で、サービスの質を高める。

実 施 施 策	ICT 機器・データ活用によるケアの質の向上
取組の方向性①	記録やデータをもとに利用者の状態や変化を客観的に把握し、勘や経験値に左右されにくい、根拠に基づいたケアを実践する。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠り SCAN を活用して、適切なタイミングで排せつ支援が行えるよう取り組む。 ・ 眠り SCAN のデータを的確に読み取り、小さな変化にも気づける力を高め、状態変化の早期発見と対応につなげる。
取組の方向性②	データを活用した支援の成功事例を共有し、「あってよかった」「実際に助けになった」といった実感を職員全体で広げ、活用意識を高める。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ データを活用した支援の成功事例を共有していく。 ・ 同様の事例を他のユニットにも展開することで、データ活用を促進する。
取組の方向性③	ICT の活用によって生まれた余力を、利用者との関わりや「人にしかできないケア」に充てられるよう、業務の流れを見直していく。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 巡回、記録、情報共有の方法や時間配分等を整理し、効率化の視点で業務の流れを見直す。 ・ 新たなテクノロジーを試行・活用する機会を設け、業務での活用を進める。

(2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 採用ブランディングの強化と多様な人材活用で、優秀な人材を獲得する。

実 施 施 策	魅力発信の強化と、多様な人材確保の推進
取組の方向性①	現場職員が採用の「顔」となり、SNS やホームページ、見学会などで「ここで働きたい」と思えるメッセージを伝える。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員同士の関わりや明るい雰囲気や情報が伝わる情報発信を行う。 ・ 施設版 SNS を開設し、週一回以上情報発信を行う。
取組の方向性②	多様な人材を受け入れ、子育て世代や高齢者、外国人材など誰もが力を発揮できる環境を整える。

行 動 計 画	・ リーダーが中心となり、業務内容や手順、役割などの業務フローを見直し、誰でも同じ流れで進められるようにする。
取組の方向性③	長く安心して働ける土壌を育て、働きやすさとやりがいを両立させ、魅力ある職場を目指す。
行 動 計 画	・ 業務内容や役割を事前に求職者と共有し、入職後のミスマッチを防ぐ。 ・ 職員のライフスタイル等を必要な範囲で把握し、勤務時間や業務分担、等の調整に活かす。

イ キャリア形成の仕組みを整え、職員が成長を実感できることで個々のモチベーションを高める。

実 施 策	成長の実感とキャリア形成を支える育成体制を推進
取組の方向性①	OJT と研修を通して学び、介護の専門家としての力を高める。
行 動 計 画	・ OJT や研修を通じて、介護の基礎知識と実践に必要な知識・技術を学ぶ機会を設ける。 ・ 学んだ内容を現場で実践し、事例をもとに振り返りを行いながら実践力の向上を図る
取組の方向性②	フィードバックと対話を通じて、挑戦を支える“育成の関わり”を強化する。
行 動 計 画	・ OJT 制度や 1on1 等を活用し、「できたこと」「身についたこと」「次につながること」を共有する。 ・ 挑戦については承認し、振り返り際には次の行動を引き出すフィードバックを意識的に行う。
取組の方向性③	キャリアパスを見える化し、自分の成長を実感できる仕組みをつくる。
行 動 計 画	・ 他の職種や役割に興味関心を持つ場合は、その仕事内容や考え方を知る機会を設け、具体的なイメージを持てるようにサポートする。

ウ 風通しの良い職場風土づくりで、健康的で働きやすい職場環境を構築する。

実 施 策	コミュニケーションの活性化による職場風土の醸成
取組の方向性①	意見や相談がしやすい職場の空気をつくり、安心して対話ができる環境を整える
行 動 計 画	・ 日常の会話やプチミーティング等で、小さな疑問や困りごとを共有する。 ・ 管理職・リーダー等は、意見に対して傾聴と共感することを心掛け、安心して話せる関係性を構築する。 ・ さまざまな立場での 1on1、ななめ面談の機会を増やす。
取組の方向性②	ミーティングやアンケートで得た意見を共有し、改善につなげるながれを作る。
行 動 計 画	・ 出た意見や相談には、即答よりも即レスを大切にし、結論が出る前でも進捗や見通しをスピーディに共有する。

取組の方向性③	ユニットを越えて協力し合える体制を強化し、働きやすい職場づくりを進める。
行動計画	・ 協力体制の強化のため、2ユニット1チーム体制の試行を行う。

エ ICT の活用で業務の生産性を高め、職員の多様な働き方を実現する。

実施施策	ICT 機器を活用した業務の効率化と働きやすさの実現
取組の方向性①	記録・情報共有・見守りを ICT 機器で一元化し、3M（ムリ・ムダ・ムラ）を減らしてケアの時間を確保する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の業務の流れや役割分担を時間帯なども含めて確認する。 ・ ユニット単位で「一つでも負担が減る業務」を試し、省力化できた事例などを共有する。 ・ ICT 機器の使用により「楽になった」「助かった」と感じた点だけでなく、使いにくさや改善点もあわせて確認する。
取組の方向性②	テクノロジーを活用して業務の省力化を進め、人員の増減に左右されにくい業務体制を整える。
行動計画	・ テクノロジーで生まれた時間を、休憩の確保や無理のない勤務につなげられているかを確認し、勤務体制の検討などを行う。
取組の方向性③	ケアの質・安全性・効率・プライバシーの視点から見守りカメラの効果を検証し、さまざまな機器連携も含めて最適な機器を選定する。
行動計画	・ 見守りカメラのトライアルを行い、効果検証を行う。
取組の方向性④	ICT 機器や業務系ソフトが現場で迷わず使えるよう、操作方法や運用ルールを整理し、定着に向けた支援体制を整備する。
行動計画	・ 導入目的や期待する役割を職員全体で共有するとともに、運用ルールの整備と研修を通じて、円滑な運用と定着を行う。
取組の方向性⑤	ICT 機器の活用で生み出した時間的余裕を、働き方の柔軟化や業務負担の軽減に結びつけ、職員が継続して働ける環境づくりを進める。
行動計画	・ 削減された業務時間を可視化し、働き方の改善や負担軽減への活用を検討する。

(3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立

ア 地域の関係機関との連携を深め、地域の中で果たすべき役割を明確にする。

実施施策	地域とつながり、次世代に福祉の理解を広げる
取組の方向性①	学校や地域団体と連携し、体験学習や講話などを通じて若い世代への福祉教育を推進する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校との連携を継続し、福祉の仕事や高齢者との関わりを知る機会として、職場体験やボランティアの受け入れを行う。 ・ 職場体験やボランティア、実習などの様子を福祉教育活動として SNS で発信する。

取組の方向性②	他の福祉施設と連携し、協働できるネットワークを築く。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人材育成や支援の質向上をテーマに、合同研修や勉強会、意見交換会を行い、互いの取り組みや工夫を学び合う。 ・ 研修や情報交換をきっかけに、担当者同士が顔と名前を知る関係をつくり、日常的に相談や連携がしやすい体制を整える。
取組の方向性③	施設の機能や取組を地域に伝え、共に支え合う関係づくりを進める。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他施設や行政、関係機関と定期的に情報交換を行い、地域や共通の課題を共有する機会をつくる。 ・ 定期的な広報誌の発行や見学会などを行い、施設の役割や取り組みを継続的に発信する。

イ 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	多様な受け入れ体制による収入の安定
取組の方向性①	医療的ケアをはじめ、多様な支援ニーズに応えられる力を高め、選ばれる施設を構築する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在対応している医療的ケアの内容や実績を整理し、「どこまで対応できているか」「どこが難しいか」を明らかにする。 ・ 圏域の医療ニーズや他施設の状況を把握し、地域から求められている役割や、今後広げていくべき受け入れの方向性を検討する。 ・ 医療的ケアの受け入れを進めるうえで必要となる体制（嘱託医、医療機関との連携、緊急時の対応方法等）について整理する。
取組の方向性②	老年期に多い疾患の予防的ケアを充実させ、施設での生活を継続できる体制を整える。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再発しやすい疾患を既往歴に持つ入居者に対し、日常のケアや観察のポイントをユニット内で共有し、実践する。 ・ 観察のポイントを参考に、「いつもと違う」気づきを早めに共有し、多職種と連携して必要なケアを集中的に行う。 ・ 再発により重症化や入院に至ったケースの事例検討会を行い、再発防止の視点で支援内容や対応のタイミングを振り返り、次の支援に活かす。
取組の方向性③	ショートステイの柔軟かつきめ細やかな利用調整を行い、「また利用したい」と思える魅力的なサービスや活動を提供する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ ショートステイの目的や役割への理解を深め、ユニット活動や日常の関わりを充実させる。 ・ 関係機関と密に連携し、利用者の状態変化やニーズに応じた柔軟な受け入れや支援ができるよう取り組む。 ・ 相談専門員室（介護支援専門員・生活相談員等）で入退所や待機状況、短期の利用状況等を共有し、連携して空床日数の減少に取り組む。

ウ 中長期的な視点をもった事業運営で、経営の持続性・透明性を高める。

実施施策	中長期的な視点による維持管理コストの抑制
取組の方向性①	建物・設備の予防的改修を行い、致命的な故障を未然に防ぐ。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設備や建物の小さな不具合や異変を、早期に担当者に伝え、必要に応じた対応を行う。 ・ 塩害など立地特性を踏まえた、設備の点検や対応を行う。
取組の方向性②	厨房の業務動線や作業効率を見直し、省エネとコスト削減を進める。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務動線や作業効率の現状把握と課題抽出を行い、省エネとコスト削減を両立する調理体制の検討を行う。
取組の方向性③	設備更新の優先順位を明確にし、長期的な維持管理コストの抑制を図る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 優先順位を可視化するためのトリアージマップを作成する

3 目標利用率

事業名	令和6年度実績	令和7年度見込	令和8年度目標
介護老人福祉施設	97.3%	96.9%	98.0%
短期入所生活介護	88.1%	86.4%	90.0%

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

項目	数量	執行見込額（税込）
どこでもミラバス	1	418
厨房機器（パススルー冷蔵庫）	2	1,296
厨房機器（製氷機）	1	559
小型電気温水器	1	297
デスクトップパソコン	5	770
施設サーバ	1	833

5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

項目	執行見込額（税込）
空調設備（室外機電子部品等交換）	4,500
空調設備（室外機サーミスタ・リニア膨張弁コイル交換）	960

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

項目	執行見込額（税込）
屋上防水改修工事	8,400
照明 LED 化工事	22,500